

## JEITA-IT-1004 10項目 対応表

項目	THK免震テーブル (TSD型)	判定	
1	減衰力(免震台によってはダンパーなどの機構がある)の機能を有していること	スプリング 及び ガイドの摩擦による減衰性能を有する	○
2	復元力の機能を有していること	スプリングを使い、復元性能を確保	○
3	搭載重量の変化に対しても、免震性能に影響が出ないこと	LMガイドを用いている(摩擦係数が一定である)事から、問題無し	○
4	搭載機器の偏心荷重に対しても、免震性能に影響が出ないこと	LMガイドを用いている(回転方向の力を拘束する)事から、問題無し	
5	ウスカ対策がなされていること	対象部品であるスプリングに、ウスカ対応メッキを施している	○
6	床下から機器への配線、冷気の供給が自由に出来ること	開口部を設けてある為、問題無し	○
7	変位を超えるような地震の揺れでもダンパー等のフェールセーフ(上下プレートが外れない)の機能が働き、搭載装置、ラックの転倒の危険性を抑える機能を有していること	実大実験の結果、問題無し	○
8	地震の固有周期を避けた装置であること	スプリングを、変位方向と直行方向に取り付け、非線形復元力を得ている事から、固有周期を持たない	○
9	免震性能は客観的なデータにて判断できる事(複数の3軸加振実証実験及び同実証実験データの提示要求に対して提出が可能なこと) 地震波の代表例としては、Kobe1995・Hatinoh1968・Taft 1952・ELcentro1940などがある	左記の、Kobe1995・Hatinoh1968・Taft1952・ELcentro1940 などの実大実験をしており、問題無し	○
10	建物構造及び設置階により適切な装置を選定すること 例)剛構造の建物の上層階に設置する場合は変位の大きいものを選定する	高層階設置の際は、別途打合せが必要	